

第 16 回 (2016 年) ざまひまわり写真コンテスト全体講評

今年の「ざまひまわり写真コンテスト」は、皆様のご支援のお蔭をもちまして 16 回を迎えることができました。今回のコンテストは、応募点数が 628 点、応募者が 259 人で、前回と比較しやや減少はしたものの、ほぼ例年通りの安定した状況となっています。このことは、ひまわり写真コンテストが市内に留まらず近隣都市の多くの写真愛好家の皆様に親しまれる事業として定着しているものと嬉しく感じております。

次に、応募作品の傾向についてご説明いたしますと、咲き誇るひまわりを上手に撮り込み畑の雄大さを表現したもの、蝶の飛ぶ澄んだ青空とひまわりの色彩コントラストを表したものの、若々しいひまわりの花をリアルに切り取ったもの、オレンジ色に焼けた夕景にひまわりを合わせたもの、沢山の観光客の皆様がひまわり畑を満喫している様子を撮ったもの、元気なひまわりを健康的に仕上げたもの、花にとまる昆虫を写し込んだもの、そして雨上りの水たまりに写るひまわりなどのたくさんの作品をご応募いただき、皆様の感性の豊かさに感心をいたしました。主催者及び各賞の提供団体からも、充実したコンテストが開催されたいへん喜ばしいことと伺っております。また、応募された方の年齢も 10 歳代から 70 歳代の方まで大変幅広い年齢層にご指示いただいたものと心強く、またありがたく感じております。

入賞作品につきましては、全応募作品の中から 18 作品を選出し、その中の 8 作品に賞の名称を付し、他の 10 本を入選としました。8 賞を獲得された方の作品にはそれぞれに寸評を記しておきましたのでどうぞご覧ください。惜しくも入賞（全 18 作品）を逃した方の中にも良い作品が多数ありました。特に同じ対象を撮影した作品を複数の方からご応募いただいた場合、また入賞数を 18 作品に絞らなければならないという審査基準の中で、残念ながら含めることができなかつた作品が多くありました。この点は審査に携わる者として大変心を痛めると同時に皆様には次回のご健闘をご祈念申し上げます。

作品は年々レベルアップしており、応募くださる写真愛好家の質の高さを感じておりますが、コンテストも 16 回と数を重ねてまいりますと、これまでにたくさんの作品が応募され、作品制作に迷いの生じる時期かと思われます。しかしながら、ご自分の感性で独自の表現力を発揮していただくことを次回作品制作の一助としていただきたいと思います。

また次回も、多くの皆様にご参加いただきますよう心よりお待ち申し上げ、この度の「ざまひまわり写真コンテスト」審査員の全体講評とさせていただきます。皆様とは、またこの会場でお会いできることを期待いたしております。

平成 28 年 9 月 吉日

写真家 高橋ぎいち